

日 時 : 平成 22 年 3 月 16 日 (火) 18:00 ~ 19:30

場 所 : 建築士会 会議室

出席者: (委 員 長) 金子 修司

(副 委 員 長) 長田 喜樹

(委 員) 芝 京子 山根 三郎 長谷川 行彦

藤田 武(会長)

(担当常任理事) 村島 正章

(事 務 局) 岡部事務局長 松山職員 田中職員

欠席者: (委 員) 石井 明 齋藤 龍男 山成 芳直 渡邊 一郎 菊嶋 秀生

平山 征宏

議 事

1. 第 8 回総務企画委員会の議事録案の確認

概要

前回委員会議事録案を異議なく承認(前回同様、メーリングリストで事前送付済み)。

質疑応答

特になし

2. 平成 22 年度活動計画について

概要

テーマ別に並べた事業計画を作成することとなった。

副委員長より、「平成 22 年度総務企画委員会事業計画」(P.4)について説明

- ・第 14 回(平成 22 年 8 月 17 日開催予定)が開催される頃には、公益法人の移行認可事例も出始め、また、他士会の動向も分かるのではないだろうか。
- ・第 15 回(平成 22 年 9 月 21 日開催予定)等で審議される賛助会の「ミニ交流会」企画案については、支部等の役員と賛助会との交流を目的としており、30 名程度の規模で開催する案としたい。越年してしまうと賀詞交歓会等と重なってしまう為、なるべく年内に開催したい。
- ・事務所協会では賛助会は技術を与えるという視点から PR をする機会を与えている。例えば、総会後の賛助会フェアや、賛助会企業が仕切って賛助会だけのイベントも開催している。

質疑応答

- ・第 24 回(平成 23 年 6 月 21 日開催予定)の開催は平成 23 年度の総会開催後になり、総務企画委員会メンバーも入れ替わっているので事業計画には載せない方がよいのではないかと、事業計画から削除する。
- ・賛助会員主催のイベントは、将来的には総務企画委員会の「部門」というより「賛助会」を独立させ、そこが運営する方向に発展させるべき。
- ・他団体では、そのような形になっているところもある。

- ・ただし、賛助会員の中での仕切り役が必要だが、一人ではたいへんかも。
- ・今回のミニ交流会については、総務企画委員会である程度まとめた方が良いのではないかと、独立した形でできることがベストなので、今後体制構築にむけて話し合ってゆきたい。
- ・スケジュールの並べ方が単純な時系列で、いろいろなテーマが混在していてわかりにくい。テーマ別に並べた事業計画を作成することとなった。

報告事項

1. 総務企画委員会の活動状況について

委員長が、ニュースターに掲載予定の総務企画委員会の活動状況(P.5)報告原稿を読み上げ、了承された。

2. 公益法人改革に関するヒアリングについて

担当職員より、「新公益法人制度に関する個別相談会の復命書」(P.6～8)

- ・一般、公益のどちらに移行する場合でも定款の変更が必要である。
- ・公益性の判断については、いかに理屈付けをしていくかが
- ・P.8の公益目的事業の箇所(士会側で判断したもの)を損益計算書ベースで計算し、収支でプラスにならない事業が全体の50%を越えるようであれば公益性への理屈付けを行い、50%以下であれば一般への移行を考えた方がよい。
- ・連合会への会費は相談会の担当職員の感覚としては公益と認められるには難しいのではないかとのことであった。
- ・3月11日(木)に開催された神奈川県主催の「新公益法人制度に関する説明会」では公益と一般とでは移行の方法が異なるので、ある程度の方角を決めてから動いた方がよいとのことであった。

副委員長より「公益法人改革関連 資料」について説明。(P.9～11)

質疑応答

- ・支部との連結決算は避けられないのか。
支部独自のやりくりの余地が残ると考えたいが、最低限各支部と本会との間の金銭の流れを整理しておいた方がよいのではないかと。
- ・現状は支部への金銭の流れはどの様になっているか。
支部交付金を支払っており、特にその後の報告等は受けていない。

3. 倫理規程について

概要

倫理規程だけでなく、懲戒規程の整備が必要であり、今後検討する。

事務局より、「社団法人 神奈川県建築士事務所協会倫理規程」等(P.11～32)について説明

質疑応答

- ・士法違反は建築士審査会にも上がる案件であるので、士会としても何かしらアクションをする必要があるのではないかと。
- ・現行定款では会費滞納者への処分しか書かれていないが...
総務企画委員会で議論し、懲戒規程の整備をする必要がある。

4. 賛助小委員会主催講演会「関東大震災と神奈川」について

- 事務局長より、「講演会『関東大震災と神奈川』」(P.33～34)について説明
- ・本日(3月16日)現在92名の方よりお申し込みをいただいている。
- ・神奈川新聞及び朝日新聞に募集記事が掲載された。

質疑応答

- ・朝日新聞の神奈川マリオンは購読者が多く、効果があるのではないかと。
本日(3月16日)、既に2件の申し込みがあった。
- ・会員、非会員の区別をしているか。
していない。

5. その他

- ・予算小委員会ではどのような内容が話し合われたのか。
総会の席上での質問に対応して、事務局で積算根拠を出せるようお願いしたい。
概略の収支の見込みでは赤字が出ているので、事務局で精査し、収支バランスのとれた案を示してほしい... といった指示を行った。
- ・交流会の予算については特にしっかりとたててもらいたい。
- ・CPDのオープン化についての影響はどう考えているか。
会費については近隣の士会と調整すべきと考えている。
- ・ICカード化についてはどの様になったか。
会員証と一緒に。また、一級建築士の免許証明書からもCPDの情報が読み取れるようになる。(国交省も了解済みである。)
- ・CPD単位の重み付けについてはどの様になったか。
講師と聴講者の評価の違いは使用側で判断し、単位数はあくまで時間単位である。
- ・「委員会活動」のCPD単位付与について、連合会に要望書を提出したりはしたか。
何会かの士会会長と一緒に出したが、議論した結果連合会の既定方針で実施することとなった。
- ・連合会からの助成金の申請期限が迫っているので忘れずに対応してもらいたい。

次回は平成22年4月13日(火)午後6時からの開催です。